

第 2 回安曇野市消防委員会 会議概要

- 1 審議会名 安曇野市消防委員会
- 2 日 時 平成 21 年 7 月 30 日 午後 6 時 00 分から午後 7 時 05 分まで
- 3 会 場 豊科総合支所 コミュニティー消防センター
- 4 出 席 者 宮下 勝委員長、笠井郁男委員、中野博夫委員、横内好幸委員、小林光男委員
島山忠幸委員、塚田茂利委員、丸山重隆委員、水上 洋委員、帯刀 隆委員
櫻井貞文委員、丸山一雄委員、大倉副団長、三原副団長、横澤副団長
- 5 市側出席者 危機管理室長、消防防災係長、下里主査、中澤主査
- 6 公開・非公開の別 公 開
- 7 傍聴人 0 人 記者 0 人
- 8 会議概要作成年月日 平成 21 年 7 月 6 日

協 議 事 項 等

- 1 会議の概要
- 1 開 会
 - 2 委員長あいさつ
 - 3 会議事項
 - (1) 分団長の選出方法・退団年齢等の団員意見集約について
 - (2) 本部組織の充実について
 - (3) その他
 - 4 閉 会
- 2 審議概要
- (1) 分団長の選出方法・退団年齢等の団員意見集約について（室長より前回会議までの確認）
- ・正副分団長の任期については 2 年が望ましいという方向を出していく。
 - ・選出方法の団内・団外については、地域によってバラつきなどがあるため、実績を考慮すると当分の間は現状の選出方法が望ましい。
 - ・退団年齢は概ね 40 歳とし、22 年度から 5 年を目安として上げて行くが、実情では目標年数が異なる。
 - ・団員定数の見直しについては、平成 19 年度に定数の確認が行われているので見直しはしない。定数を下げるとことは難しいので慎重に対応したい。
 - ・平成 22 年度から方面隊長を廃止する。正副団長の選出については、現の正副団長から来年度の団長を決め、新団長を選出した地域以外から副団長 4 名を選出する。
 - ・分団長の位置付けが必要ということで、旧町村では副団長レベルの位置づけとなるということで分団長の扱いにはそれなりの位置づけ等が必要である。
- ・笠井・中野委員より 22 年度から方面隊長が廃止になるが、現在の豊科方面隊長は 1 年で任期が終わってしまうが何か良い措置があれば。
- 分団長の選出方法等について団員から意見集約を行った。（集約結果を配布し、係長が説明）
- 40 歳定年については、「5 年後に」とあるが、実情を考えると難しいという気がします。各方面隊の特色等が異なるため、最終的に 40 歳になるように慎重に進めたい。
- 団長より 現状では幹部から分団長・副分団長・部長まで下ろした討議が出来ていない。昨日、松本消防協会の会議に出席したが、安曇野市消防団の平均年齢は松本市や塩尻市と 3・4 歳しが違わないが経験年数が松本・塩尻と比べると非常に少ない。分団長の選出については、ある程度経験を積んで指揮の執れる方を据えていかないといけないというのが私たちの考えです。

※会議概要は、原則として公開します。会議終了後、2 週間以内に企画財政部まちづくり推進課へ提出してください。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。

- 中野委員より 確かに安曇野市消防団は経験年数が少ない。経験を重要視するのであれば団外からよりも団内昇格の方が良いと思う。団内から年齢を上げながらやっていくのが一番経験は多くなると思いますが、さすがそこに持っていくにはかなり抵抗があると思う。選出するときに「団歴が何年以上ないと」というような決め事みたいにしてやる方法もあると思う。何年以上の団歴をもった人を推薦して、ある程度の期間をもってスライドしながら団内から団長・副団長を上げていくという形をとっていけば良いのでは。
- 笠井委員より 今までの消防団員は自営業者が多かったが、今はサラリーマンが多い、40代という職場に行く中堅で一番大事なポストだと思う。ある程度職場で理解していただければいいが、その辺を考慮しながら団外・団内ということを考えていかなければいけないのではないかと。
- 小林委員より 選出方法については、団外の場合は一回退団した方が復帰するには家族の同意を得るなど非常に難しいと思う。内部昇格の場合だと今の勢いでもう少し頑張ってもらいたいという押し方もあると思う。消防団といってもボランティア団体には厳しい時代だと思う。会社関係でも40歳といえば会社の幹部で中枢で後を背負っていく人間ですから。その辺も含め今から教育の過程で行っていかないとはいけません。費用的にも市の方で消防団幹部の皆さんが使う費用をいくらかは考えてやるなど改善していかなくてはならないのでは。
- 水上委員より 一番大変なのは人員の確保だと思う。副分団長をやって団員に下りるところがあるように地区によって温度差がある。若い人達が現場で実際に行動されているのでその辺を考慮しなければいけない。
- 団長より 県内でも安曇野市と同規模の都市でありながら団員が3・4割多く充足率が100%に近いところがある。そういうところの団員の勧誘方法としてはやっぱり行政もすごく力を入れているし、また、行政の方から地区の区長さんに依頼し、消防団と協議してもらい情報もらった中で、地区の役員等と一緒に勧誘に廻るといった方法を行っています。消防団員だけの勧誘というのは非常に難しいという気がします。松本市のように団員募集のCMをやってアピールをしているという事例もありますので、やはりそういう点では安曇野市は少し遅れているかなという気がします。団員確保というのは私たちの使命ですので、是非、消防委員の皆様から行政にプッシュしていただければと思います。
- 笠井委員より 行政がまず企業を廻って「企業で各何名出してほしい」という依頼をしてもらえば、ある程度確保が出来るのかなという感じがします。市長が「企業から何名参加させてくれ」というような依頼をしていただければいいと思います。そうことをしていかないと団員の確保は難しいのではないかと。
- 宮下委員長 団員確保については、委員会の方でも会議を開くようにしたいと思う。